

死刑映画週間これまでの上映作品

2026年2月 第15回

大統領暗殺裁判 16 日間の真実 (チュ・チャンミン 2024)

私は死にたくない (ロバート・ワイズ 1958 年)

金子差入店 (古川豪 2025)

拳と祈り (笠井千晶 2024)

聖なるイチジクの種 (モハメド・ラスロフ 2024)

SAYAMA みえない手錠をはずすまで (金聖雄 2014)

にっぽん泥棒物語 (山本薩夫 1965)

2025年2月 第14回

死刑台のメロディ (ジュリアーノ・モンタルド 1971)

処刑前夜 (滝沢英輔 1961)

流麻溝十五号 (周美玲 2022)

正義の行方 (木寺一孝 2024)

異邦人 (ルキノ・ヴィスコンティ 1967)

月 (石井裕也 2023 年)

衝動殺人、息子よ (木下恵介 1979)

2024年2月 第13回

ある男 (石川慶 2022)

私、オルガ・ヘブナロヴァー (トマーシュ・ヴァインレブ&ペトル・カズダ 2016)

キエフ裁判 (セルゲイ・ロズニツァ 2022)

袴田巖 夢の間の世の中 (金聖雄 2016)

対峙 (フラン・克蘭ツ 2021 年)

赦し (アンシュル・チョウハン 2022)

青春を返せ (井田深 1963)

2023年2月 第12回

『白い牛のバラッド』(ベタシュ・サファイナ 2020)

『海と毒薬』(熊井啓 1986)

『愛は降る星のかなたに』(斎藤武市 1956)

『悪は存在せず』(モハメッド・ラスロフ 2020)

『チェチェンへようこそ』(D・フランス. 2022)

『抗いー記録映画作家 林えいだい』(西嶋真司 2016)

『顔のないヒットラーたち』(ジュリオ・リッチャレッツィ 2014)

2022年2月 第11回

私は金正男を殺していない (ライアン・ホワイト 2018)

狼をさがして (キム・ミレ 2020)

『裁き』(チャイタニヤ・タームハネー 2014)

帝銀事件 大量殺人獄中三十二年の死刑囚 (森崎東 1980)

女は二度決断する (ファティ・アキン 2017)

黒い司法 (デスティン・ダニエル・クレットン 2020)

免田栄 獄中の生 (小池征人 1993)

2021年2月 第10回

8 番目の男 (ホン・スンワン 2019)

コリーニ事件 (マルコ・クロイツパイントナー 2019)

プリズン・サークル (坂上香 2019)

処刑の丘 (ラリーサ・シェビチコ監督 1976 年)

ウォーデン消えた死刑囚 (ニマ・ジャウイディ監督 2019)

アメリカン・プリズナー (ティモシー・ウッドワード・jr 2017)

肅清裁判 (セルゲイ・ロズニツァ 2018)

菊とギロチン (瀬々敬久 2018 年)

主催・企画 死刑廃止国際条約の批准を求める FORUM90



●上映決定！

「金子文子 何が私をこうさせたか」

浜野佐知監督 2025 年／121 分／日本／旦々舎

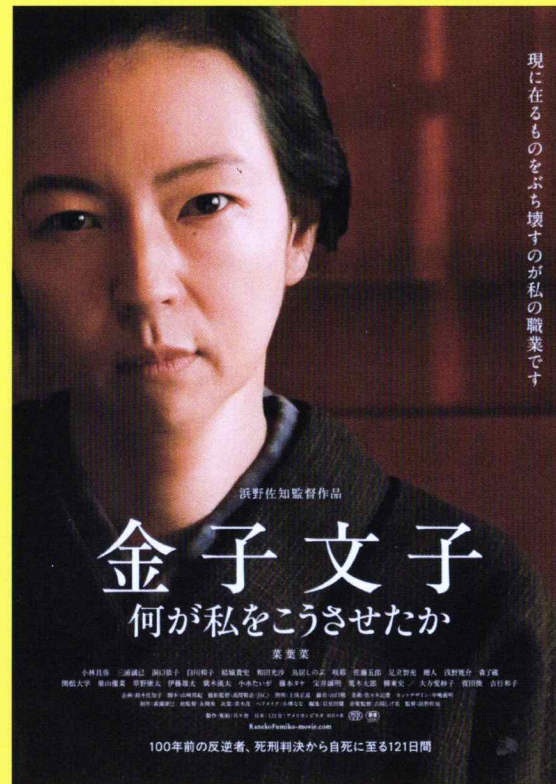
「100 年のときを経て、疾風怒濤のアナキストがいまこの世界によみがえる。やったぜ！」
栗原康。死刑判決から死への 121 日間、文子に何があったのか。本映画は、これまで空白だった死刑判決から死に至る、金子文子の最後の闘いを、残された数少ない短歌と共に描く。

「うそがほんとに ほんとがうそに」

金聖雄監督 2027 年製作／104 分／日本

無罪が確定した袴田事件と、未だ再審裁判の扉が開かない狭小事件の「うそ」と「ほんと」を見つめる。権力にあらがい、あきらめず前を向き歩み続けるふたつの家族。そのささやかな日常とおおらかな心は、理不尽極まりない日本の司法の残酷さを浮き彫りにする。

あと 5 作品交渉中！



死刑映画週間 2027.2.6 ~ 2.12

ユーロスペース

渋谷区円山町 1 - 5

KINOAUS 3F 03-3461-0211